

じゅしゅう

元旦会

令和七年一月一日、新年を迎え、皆さまと一緒にご挨拶をさせていただきました。新年を喜びの中で迎えられる方もあれば、悲しみと共に始められる方もおられます。阿弥陀さまはどんな状況であつても、そのままの自分を認めてくださいます。新しい一年を、新しい一日を感謝していく、そんなお互いのご挨拶でありました。

元旦会のご講師には新發田恵司先生をお迎えし、お聴聞させていただきました。ご議題には親鸞聖人の『正像末和讃』より「如来の作願をたづぬれば、苦惱の有情をすてずして、回向を首としたまひて、大悲心をば

成就せり」でした。私の起こす願いは、あくまで自分中心の願いです。世界平和や疫病がなくなるようにと人類に対する願いを持つこともありますが、それでも私が抜けた願いはありません。阿弥陀さまも願いを持たれておられます。それは自分のためではなく、苦悩する私を見捨てたくないという願いでした。私の喜びも悲しみも、そのまま受けとめ、寄り添ってくださいることで、今日の一日を過ごす支えをいただきます。それが「南無阿弥陀仏」です。



第70号
(通算410号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

仏教婦人会総会

同じく一月十二日、浄覚寺仏教婦人会の総会・新年会が行われました。会員さまだけの行事ではありませんが、正信偈の行譜を一緒におつとめし、ご法話は任職がさせていただきます。蓮如上人が残された『領解文』という文章があります。浄土真宗の教えの受け取り方(領解)をあわらしたものです。その中でも特に重要な「自力の心を頼りにせず、阿弥陀さまの救いの働きに任せる」という「捨自帰他(自力を捨てて他力に帰する)」というおこころを解説させていただきます。

この受け取り方は浄土真宗独特のものであり、他宗

浄覚寺ヨガ教室

・2月19日(水)
10時~11時半
・参加費500円

浄覚寺雅楽教室

・2月25日(火)
19時~20時半
・参加費1000円

この違いでもあります。他の宗旨では、自らを律し、自分の努力の結果、悟りへ近づくという理屈です。因果応報という言葉もありますが、わかりやすい考え方だと思えます。けれど、自らの努力を救いの因としてしまうと、できない人、やりたくない人が必ずいます。救いからもらえるということ。浄土真宗の阿弥陀さまは、誰一人としてもらすことなく悟りのいのちに生まれさせると願われます。「我に任せよ、必ず救う」と今届いております。



もろもろの雑行雑修

自力のこころをふりすて、

一心に阿弥陀如来、

われらが今度の一大事の後生、

御たすけせうらえと

たのみもうしてせうらう

蓮如上人『領解文』



御文章に聞く(第63回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

紙)を味わっていきたいと思います。
今月は「お聖教」と讃岐(香川県)の床松さんとのエピソードをお伝えし

一切の聖教章(五帖第九通)
これによりて・南無とたのむ衆生
を・阿弥陀仏のたすけまします道理
なるがゆえに、南無阿弥陀仏の六字
のすがたは・すなわちわれら一切衆
生の平等にたすかりつる・すがたな
りとしらるるなり、されば、他力の
信心をうるといふも・これしかしな
がら・南無阿弥陀仏の六字のころ
なり、このゆえに・一切の聖教とい
うも、ただ、南無阿弥陀仏の六字を
信ぜしめんがためなりと・いうこ
るなりと、おもふべきものなり、
あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手

仏教語辞典



仏教では「おつこう」といい、
とても長く長い時間のことを
いう。それが現在ではめんどくさ
くて仕方が無いという意味になっ
ている。劫は時間の単位で約六
十km四方の鉄城に芥子の実がぎっ
しりになったところに、百年に
一度、一粒ずつ持って行くとい
うことを、すべて芥子が

億劫

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストと
わかりやすい言葉で読み解かれてい
ます。ぜひお買い求めください。

ます。床松さんは江戸から明治にかけ
て浄土真宗の信仰に生きた方で、その
言行から妙好人と讃えられた方です。
ご法義聴聞に関しては勝れた感性を発
揮されましたが、文字を読解できなかつ
たそうです。そんな床松さんに嫉妬を
いだき、恥をかかせようと企んだ人が
いました。床松さんは常に「『お経さま
』は有難い」と喜んでおられました。
たので、人前で『お経』を読ませて、
読めなくて困る床松さんを笑わせよう
としたのです。あるご法座のおり、床
松さんに「あなたは『お経さま』が読
めるそうじゃな、この『お経』を讀ん
でもらえまいか」と頼みました。すると
床松さんは恭しく『お経』をいただ
いて、「ここにはな(床松をたすくる
ぞ。床松をたすくる。床松をたすくる
...)と書いてあるわいと読み上げた
のでした。企ては見事に逆転しました。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。
蓮如上人は、ことあるごとに「ものを申せ」と、
口に出して気持ちを表すことを勧められました。
教えをどのように受け取っているかを口に出すこ
とで確認することができます。またご助言もいた
だけたようです。その信仰告白の正解が「領解文」
といわれるものなのです。五百年以上前の言葉で
すので解説が必要となりますが、間違えることな
く受け取らせていただきましょう。(釋法道)

なくなるまで繰り返ししても、まだ劫は終わらない。
それが一億倍あるのです(長い時間なのである)。

浄覚寺の公式LINEにぜひご登録ください。
デジタル「じゅこう」をお届けします。



3月

三月二十日(祝) 十四時より
春季彼岸会 法話 四夷法顯先生

日時・二月十六日(日) 十四時より
行事・第五回 仏教文化講演会
講師・麻田弘潤先生
テーマ・消しゴムはんこワークショップ
右上の『気になる仏教語辞典』の著者でもある麻田先生は
消しゴムはんこの作家でもあります。お寺で消しゴムはんこ
を作りながら、仏教思想を学べるワークショップです。
先月からご案内しており、残席あとわずかです。お早め
にお申し込みください。詳細は別紙にて。
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

行事案内

